

全国民生委員互助事業取扱要領対比表

現 行	改 正 案
<p>1. 弔慰、見舞又は退任慰労の種類・金額・範囲 会員が次の各号に該当した場合、当該各号に定めるところによって、弔慰、見舞又は退任慰労を行う。 申請は、事故発生後1年以内に行うこと。 (表1 入る)</p> <p>2. 給付の方法</p> <p>(1) 弔慰金及び見舞金は、「厚生労働大臣」と「全国民生委員・児童委員一同」の連名で)原則として金員によって行う。</p> <p>(2) 会員の死亡弔慰にあたっては、全民児連会長の弔辞(互助様式第1号)を贈る。</p> <p>(3) 退任慰労は、「全国民生委員・児童委員一同」の名義を付し、給付する。また、退任慰労の具体的方法について、県社協は、それぞれの実情に即して効果的に運用する。</p> <p>3. 申請手続きと給付の決定</p> <p>(1) 市区町村社協の業務 受 付 市区町村社協会長は管内の会員、または会員の遺族から弔慰金や見舞金、退任慰労の申し出があったときは、その事実を確認し、給付金申請書(互助様式第2号)に表2で示す当該申請書類を添付して県社協会長に提出する。 (表2 入る)</p> <p style="padding-left: 2em;">会員又は遺族への給付 県社協会長より給付金の送金があった時は、速やかに適切な方法で会員又は遺族に給付する。</p> <p>(2) 県社協の業務 受 付 市区町村社協会長より申請を受けたときは、申請書類を確認のうえ、受付処理台帳(互助様式第14号)に記入する。 ア. 公務関係については、県社協会長名で全社協会長に申請する。 イ. 公務関係以外の一般給付については、次項により審査決定する。</p>	<p>1. 弔慰、見舞又は退任慰労の種類・金額・範囲 会員が次の各号に該当した場合、当該各号に定めるところによって、弔慰、見舞又は退任慰労を行う。 申請は、事故発生後1年以内に行うこと。 (表1 入る)</p> <p>2. 給付の方法</p> <p>(1) 弔慰金及び見舞金は、「厚生労働大臣」と「全国民生委員・児童委員一同」の連名で)原則として金員によって行う。</p> <p>(2) 会員の死亡弔慰にあたっては、全民児連会長の弔辞(互助様式第1号)を贈る。</p> <p>(3) 退任慰労は、「全国民生委員・児童委員一同」の名義を付し、給付する。また、退任慰労の具体的方法について、県社協等は、それぞれの実情に即して効果的に運用する。</p> <p>3. 申請手続きと給付の決定</p> <p>(1) 市区町村社協等の業務 受 付 市区町村社協会長もしくは市区町村民児協会長(以下、市区町村社協会長等という)は管内の会員、または会員の遺族から弔慰金や見舞金、退任慰労の申し出があったときは、その事実を確認し、給付金申請書(互助様式第2号)に表2で示す当該申請書類を添付して県社協等に提出する。 (表2 入る)</p> <p style="padding-left: 2em;">会員又は遺族への給付 県社協等より給付金の送金があった時は、速やかに適切な方法で会員又は遺族に給付する。</p> <p>(2) 県社協等の業務 受 付 市区町村社協会長等より申請を受けたときは、申請書類を確認のうえ、受付処理台帳(互助様式第14号)に記入する。 ア. 公務関係については、県社協等代表者名で全社協会長に申請する。 イ. 公務関係以外の一般給付については、次項により審査決定する。</p>

現 行	改 正 案
<p>審 査</p> <p>審査にあたっては、表 1 に示す各種類の範囲に合致するかどうかを確認し、承認、不承認、再調査を決定する。</p> <p>審査結果の通知並びに送金</p> <p>ア．承認</p> <p>給付を承認したときは、市区町村社協会長に給付決定・送金通知書（互助様式第 9 号(正)）を送付する。</p> <p>なお、給付金の送金は銀行振込を原則とし、振込依頼書控は証憑書類として10年間県社協において保存する。</p> <p>イ．不承認</p> <p>給付を不承認としたときは、市区町村社協会長に給付不承認通知書（互助様式第10号）で通知する。</p> <p>ウ．再調査</p> <p>給付の承認、不承認が決定できないときは、市区町村社協会長宛に再調査を依頼し、当該事項について回答を求める。</p> <p>請求及び報告</p> <p>給付決定したものについては、給付金報告・請求書（互助様式第11号）及び給付明細書（互助様式第12号）に記入のうえ、毎月 1 回全社協会長宛に提出する（15日締）。</p> <p>(3) 全社協の業務</p> <p>公務に起因する弔慰・見舞については、運営委員長の意見をきいて全社協会長が決定する。</p> <p>県社協会長より提出された給付金報告・請求書及び明細書に基づき、原則として毎月 1 回、給付金を給付金送金通知書（互助様式第13号）を添付し県社協会長に送金する。</p> <p>互助様式第 2、第 9、第11、第12各号の用紙は、県社協からの請求があれば、全社協から送付する。</p>	<p>審 査</p> <p><u>県社協等は、各県の実情に応じて審査手続きの方法を予め定め、その方法により審査する。</u></p> <p>審査にあたっては、表 1 に示す各種類の範囲に合致するかどうかを確認し、承認、不承認、再調査を決定する。</p> <p>審査結果の通知並びに送金</p> <p>ア．承認</p> <p>給付を承認したときは、市区町村社協会長等に給付決定・送金通知書（互助様式第 9 号(正)）を送付する。</p> <p>なお、給付金の送金は銀行振込を原則とし、振込依頼書控は証憑書類として10年間県社協等において保存する。</p> <p>イ．不承認</p> <p>給付を不承認としたときは、市区町村社協会長等に給付不承認通知書（互助様式第10号）で通知する。</p> <p>ウ．再調査</p> <p>給付の承認、不承認が決定できないときは、市区町村社協会長等宛に再調査を依頼し、当該事項について回答を求める。</p> <p>請求及び報告</p> <p>給付決定したものについては、給付金報告・請求書（互助様式第11号）及び給付明細書（互助様式第12号）に記入のうえ、毎月 1 回全社協会長宛に提出する（15日締）。</p> <p>(3) 全社協の業務</p> <p>公務に起因する弔慰・見舞については、<u>審査委員会の意見をきいて全社協会長が決定する。</u></p> <p>県社協等より提出された給付金報告・請求書及び明細書に基づき、原則として毎月 1 回、給付金を給付金送金通知書（互助様式第13号）を添付し県社協等に送金する。</p> <p>互助様式第 2、第 9、第11、第12各号の用紙は、県社協等からの請求があれば、全社協から送付する。</p>

現 行	改 正 案
<p>4 . 前渡資金</p> <p>全社協会長は、県社協における給付金の便宜をはかるため、前渡資金制度を設けることができる。前渡資金は、公務給付以外の次の用途にあてることとする。</p> <p>(1) 一般死亡弔慰金 (2) 配偶者死亡弔慰金 (3) 一般傷病見舞金 (4) 災害見舞金 (5) 退任慰労金</p> <p>5 . 経 理</p> <p>(1) 県社協の処理</p> <p>給付に関する経理は、給付金受払簿（互助様式第 15 号）に記入し、他の経理と混同しないように、適正に処理しなければならない。</p> <p>収入・支出科目は次のとおりとする。</p> <p><u>資金収支計算書に</u></p> <p>「経常活動による収入：事業収入：給付金収入：民生委員互助事業給付金収入」</p> <p>「経常活動による支出：事業費支出：給付金支出：民生委員互助事業給付金支出」</p> <p><u>事業活動収支計算書に</u></p> <p>「事業活動収入の部：事業収入：給付金収入：民生委員互助事業給付金収入」</p> <p>「事業活動支出の部：事業費支出：給付金支出：民生委員互助事業給付金支出」</p> <p>(2) 市区町村社協の処理</p> <p>市区町村社協については、一部の事務手続きを請け負うのみであって、給付金受払いのための証憑書類等の保存がないので、収入・支出科目を設定せず「貸借対照表：流動負債：預り金」を使用して受払いを行う。</p>	<p>4 . 前渡資金</p> <p>全社協会長は、県社協等における給付金の便宜をはかるため、前渡資金制度を設けることができる。前渡資金は、公務給付以外の次の用途にあてることとする。</p> <p>(1) 一般死亡弔慰金 (2) 配偶者死亡弔慰金 (3) 一般傷病見舞金 (4) 災害見舞金 (5) 退任慰労金</p> <p>5 . 経 理</p> <p>(1) 県社協等の処理</p> <p>給付に関する経理は、給付金受払簿（互助様式第 15 号）に記入し、他の経理と混同しないように、適正に処理しなければならない。</p> <p>収入・支出科目は次のとおりとする。</p> <p><u>ア 社会福祉法人の場合</u></p> <p><u>資金収支計算書に</u></p> <p>「経常活動による収入：事業収入：給付金収入：民生委員互助事業給付金収入」</p> <p>「経常活動による支出：事業費支出：給付金支出：民生委員互助事業給付金支出」</p> <p><u>事業活動収支計算書に</u></p> <p>「事業活動収入の部：事業収入：給付金収入：民生委員互助事業給付金収入」</p> <p>「事業活動支出の部：事業費支出：給付金支出：民生委員互助事業給付金支出」</p> <p><u>イ 社会福祉法人以外の場合</u></p> <p><u>収支計算書に</u></p> <p><u>収入：民生委員互助事業給付金収入</u></p> <p><u>支出：民生委員互助事業給付金支出</u></p> <p>(2) 市区町村社協等の処理</p> <p>市区町村社協等については、一部の事務手続きを請け負うのみであって、給付金受払いのための証憑書類等の保存がないので、収入・支出科目を設定せず「貸借対照表：流動負債：預り金」を使用して受払いを行う。</p>

[表1]

種 類		金 額	範 囲
公 務 関 係	(1)死亡弔慰 公務死亡	100,000円～ 200,000円	ア．都道府県・指定都市、市区町村、福祉事務所、社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、その他の関係機関の指示による諸活動、並びに民生委員・児童委員としての職務遂行下、他人から危害を加えられ、もしくは不慮の事故による死亡または傷害。 イ．前記による諸活動の遂行が直接の原因とみられる疾病。 ウ．その他明らかに公務の遂行に起因するとみられる死亡、傷害又は疾病。
	(2)傷病見舞 公務傷害	30,000円～ 150,000円	
	公務疾病	20,000円	
一 般 給 付	(1)死亡弔慰 一般死亡	30,000円	ア．会員の公務以外の事由による死亡。 イ．会員と婚姻関係にある者及び事実上婚姻関係と同様の事情にある者の死亡。
	配偶者死亡	15,000円	
	(2)傷病見舞 一般傷病	8,000円 10,000円	入院、通院など発生後1カ月以上の療養を必要とした傷病。 (自宅療養期間も含める) 1カ月以上2カ月未満の療養を必要とした場合。 2カ月以上の療養を必要とした場合。
	療養2カ月未満 " 以上		
(3)災害見舞 居宅の場合	20,000円	ア．居宅以外の建造物は、居宅と隣接又は同一敷地内にある納屋、倉庫、工場、店舗、診療所、事務所、貸しアパート、寺社等の建物。 イ．居宅と居宅以外の建造物が同時に罹災した場合は、居宅のみを対象とする。	
居宅以外	15,000円		
(4)退任慰労 在任9年未満	3,000円	ア．対象者の在任期間が、 1年以上9年未満の場合。 9年以上の場合。 イ．死亡による退任の場合は、死亡弔慰をもって退任慰労を含むものとする。	
" 以上	5,000円		

〔表2〕

種 類	申 請 書 類
公 務 死 亡	ア．公務死亡状況説明書（互助様式第3号） イ．公務死亡証明書（関係公的機関の長、若しくは当該社協会長等による） ウ．医師の発行する死亡診断書
公 務 傷 害 及 び 公 務 疾 病	ア．公務傷害・公務疾病状況説明書（互助様式第4号） イ．公務傷害・公務疾病証明書（関係公的機関の長、又は当該社協会長等による） ウ．医師の発行する診断書
一 般 死 亡	医師の発行する死亡診断書 ただし、一般死亡確認書（互助様式第5号）をもって代えることができる。
配 偶 者 死 亡	医師の発行する死亡診断書 ただし、配偶者死亡確認書（互助様式第6号）をもって代えることができる。
一 般 傷 病	医師の発行する診断書 ただし、一般傷病確認書（互助様式第7号）をもって代えることができる。
災 害	関係官公署の罹災証明書
退 任 慰 労	退任確認書（互助様式第8号）